

竹林の風

～すべては学校のため すべては子どもたちのため～

栃木県教育委員会事務局
河内教育事務所
令和4年12月7日
発行責任者 西村和孝
http://www.pref.tochigi.lg.jp/m51/
kawachi-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

第65号



コンプライアンス意識実態調査の考察



この調査は、教職員一人一人が自己のコンプライアンス意識を点検し、「コンプライアンス意識の更なる高揚を図ること」、また、学校管理職が、学校全体の実態を把握することで、「不祥事の未然防止に係る取組の更なる改善に結びつけること」を目的としています。ここ数年、本調査の傾向として、河内管内の学校は、全ての調査項目で、その達成率が高い傾向にありました。これは、皆様が教育公務員として高い使命感や倫理観をもって日頃から教育活動に取り組まれている意識の表れでもあります。

本年度の調査においても、多くの調査項目で達成率が高い結果となりました。しかし、子どもの成長に携わる私たちは、その職責の重さを絶えず自覚し、**誇りと品格をもって子どもたちと向き合える教師**であり続けたいものです。そこで、以下の三つの視点に分け、学校全体または個人で取り組む「不祥事の未然防止策」の例を紹介しますので参考にしてください。

年末年始を迎えるにあたり、皆様で改めて、**信頼される教職員としての言動**を意識し、**不祥事の撲滅、服務規律の確保**に向けた機運を高めていく機会にさせていただきたいと思えます。

1 達成率は高いが、昨年度と比較すると下がった項目

項目（1）職場環境（風土）

- ③ あなたの学校では、職員は児童生徒の人権を大切にし、常に、言葉遣いや発言・行動に注意している。

項目（3）体罰や暴言の禁止

- ③ あなたの学校では、児童・生徒指導を一部の教員に任せることなく、組織として対応している。

項目（5）個人情報保護・情報セキュリティ

- ③ あなたの学校では、職員は部外者（校内外を問わず）がいる場所で児童生徒、保護者の話など個人情報に関わる会話をしないように気をつけている。

＜学校全体または個人で取り組んでみましょう＞

自他の言動を振り返り、常に高い倫理意識を持ち続けましょう

- ・チェックリストなどを活用し、自分や周りの職員の言動や人権意識について振り返る機会を学校として定期的に作りましょう。
- ・児童・生徒指導は、教職員間で共通理解を図り、組織的に進めましょう。個人での対応は、自分を正当化するなど認知の歪みを生むことがあります。
- ・不祥事の事例やニュースにより、不祥事を起こした人の言動や要因、背景を知ること、当事者意識をもち、どのように行動すべきか考えましょう。

2 昨年度に引き続き達成率が低く、改善を図りたい項目

項目（1）職場環境（風土）

- ④ あなたの学校では、職員が互いの人権を大切にし、言動について率直に注意や助言ができる「風通しの良い」職場環境づくりや人間関係づくりに努めている。

項目（3）体罰や暴言の禁止

- ④ あなたの学校では、職員が児童生徒を指導する際、怒鳴ったり、威圧的な態度になったりせず、冷静に対応している。
- ⑤ あなたの学校には、体罰や暴言について、職員同士が注意しあえる雰囲気がある。

＜学校全体または個人で取り組んでみましょう＞

言いたいこと（必要と感じていること）が言える職場づくりを推進しましょう

- ・まずは、報告・連絡・相談を徹底することから始めてみましょう。
- ・「あれ、これはおかしい？」と感じる場面に遭遇したら、身近な同僚や先輩に相談しましょう。その教職員の心情や立場を理解しつつも、児童生徒の心身を第一に考え、勇気をもって、注意や助言をしましょう。そして、早期解決に向けて、管理職へその状況を伝えましょう。

3 学校でのルールを再確認していただきたい項目

項目（5）個人情報保護・情報セキュリティ

- ② あなたの学校では、個人情報を校外に持ち出す場合には、記憶媒体（CD・USBメモリ等）にパスワードを設定するなど、個人情報についての取扱いを徹底している。

項目（6）適正な会計処理等

- ② あなたの学校では、現金を個人の机やロッカーの中などに保管しないようにしている。

＜学校全体または個人で取り組んでみましょう＞

定期的にルールを再確認しましょう

- ・学年や学校全体で、机やロッカーに「個人のUSBメモリ」や「現金」を置いていないか確認する期日を決め、事前に対処することで事故防止に努めましょう。
- ・年末の授業最終日等の打合せを利用し、「個人情報の定義」と「学校外に持ち出す場合のルール」を再確認しましょう。

重みと責任、やりがいを胸に

昨年、新型コロナウイルス感染症の対応で、数日ですが、夜遅くまで保健所とやりとりをすることがありました。ふとメールの差出人の名前を見ると、20年以上前に勤めた学校に在籍していた子の名前です。担任はしていませんでしたが、教師、子どもたち、保護者と一体感のある学校で、よく覚えていました。まさかとは思いましたが、電話で直接話をする機会があったため、最後に思い切って「失礼ですが、〇〇小の卒業ですか？」と聞いてみると、「西村先生ですよね。そうかもしれないと思っていました。今朝、お父さんやお母さんに話したんです。」と返ってきました。「忙しいけど、身体に気をつけてね。」「先生も。」短いやりとりでしたが、元気をもらったひとときでした。

考えてみますと、将来にわたって名前を覚えてもらえる職業はそんなに多くはありません。私がかかわってきた子どもたち一人一人にとって、私は「先生」であり続けます。そのことの重みと責任、そしてやりがいを胸に、これからも教職に携わっていきたいと思います。（河内教育事務所長 西村 和孝）

教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする